

沖合かご漁業開発試験（エビ類に対する網目選択性試験）

（第2県土水産資源調査）

曾田一志・福井克也

1. 研究目的

バイかご漁業におけるモロトゲアカエビの漁獲状況を調査し、資源に対する現状の漁獲強度（目合等）の評価を行い、脱出口付きかごを用いた資源管理手法の検討を行う。

2. 研究方法

市場調査は J F しまね大田支所において、2007年8月10日及び17日に、試験操業は調査船明風を使用し、2007年6月1日～9月26日にかけて、大田市沖～益田市沖合の水深180m～200mで行った。試験操業には、通常使用される9節目合および9節目合かごに脱出口として内径25mmと30mmの金属製リングをかご側面底部にそれぞれ4個、8個、12個取り付けたかご、対照区として適宜8節、10節のかごを使用した。浸水時間は20～48時間であった。

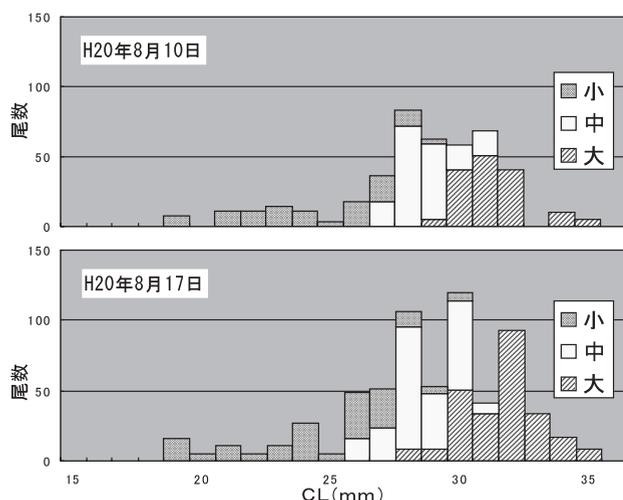


図1 調査当日の頭胸甲長（CL）組成

3. 研究結果

(1) 市場調査結果

調査当日の漁獲物の頭胸甲長（以下CL）組成を図1に示した。漁獲されたモロトゲアカエ

ビのCLは両調査日とも、27mm以上が多く、漁獲の主体は中、大銘柄であった。

(2) 試験操業結果

各かごで漁獲されたモロトゲアカエビのCL組成を図2に示す。30mm脱出口8個付きおよび12個付きかごをのぞき、CL25mm以下の個体（図中白色）が占める割合は、9節目合かごと比較して減少した。大田市沖の漁場における10節目合かごのCL組成（浸け時間24時間）は、CL16～32mmまでの個体が漁獲され、その中心は25～28mmであった。

市場調査における組成（図1）と比較すると、10節目合いかごの方が、25mm以下の個体の割合が高く、バイかご漁業の際には、CL25mm以下の個体の多くは漁獲されず、9節目合かごから抜けていると考えられた。以上のことから、現在の操業形態（9節目合かご、浸け時間48時間以上）がCL25mm以下の小型個体に与える影響は大きくないと推察され、現状を維持することが望ましいと考えられた。

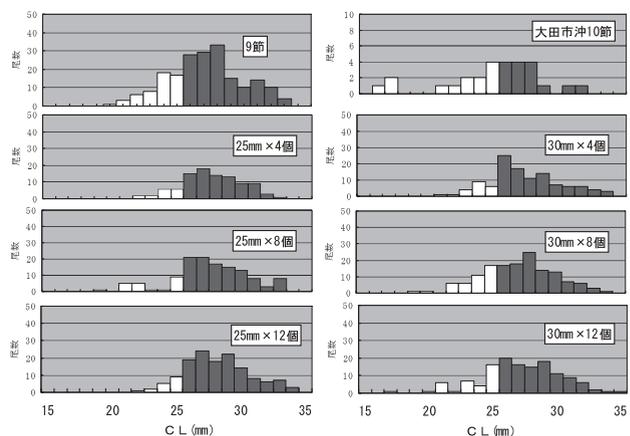


図2 各かご種類別の頭胸甲長（CL）組成